

2013年 夢アイデアの提案

まちのコピー



例のコピー

例のコピー



君の一生懸命に、ありがとう。

タイトル:まちのコピー、対象地:-、分類:まちづくり支援システム

□ A B C朝日放送

(熱闘甲子園)

人の一生懸命には、人を感動させる力があるとスポーツを見ていると感じることがあります。

甲子園では日本全国から集まった高校球児が、日本一を目指して一生懸命に試合をする。手を抜いている球児はどこにもいない、ここにいるすべての人が一生懸命。

そんな球児に言葉をかけるとしたら「おつかれさま」ではなく、「ありがとう」なんだろうなあ。と、このコピーを見て思いました。

例のコピー



タイトル:まちのコピー、対象地:-、分類:まちづくり支援システム

前略、僕は日本のどこかにいます。

□ J R東日本（青春18きっぷ）

大学生の頃、何度か青春18きっぷで12時間かけて博多から大阪へ行きました。

山口～広島～岡山の間、景色が全く変わらず、駅名も聞いたことがなく、いったい自分がどこにいるのかわからなくなりました。なので、このコピーを見たとき、とても共感することができました。

この場所は、愛媛県の伊予市にある下灘駅（JR予讃線）という駅で、海がとてもきれいに見える場所らしいです。

時間はあるけど、お金がない大学生。

お金はあるけど、時間がない社会人。

このコピーを見て、どっちがいいのかふと考えてしまいました。

例のコピー



□日本郵便

僕は名古屋に住んでいて、博多まで700kmあり、新幹線に乗ると30,000円、4時間かかりますが、郵便だったら80円で自分の思いが届いてしまう。実際に会うことはできませんが、「会えないなら手紙を書こう」と、思えるコピーだと思います。この、コピーを見ると遠距離恋愛している恋人同士も悪くないと思うのではないのでしょうか。

僕らは、80円で会える距離にいる。

書く、まちのコピー



書く、まちのコピー

別府温泉のコピー

“別府温泉のコピー”をってみました！（僕が別府市出身なので…）

すでに使われているコピー、僕が考えたコピーを少し見てください。



書く、まちのコピー①

(別府温泉の父と呼ばれている油屋熊八さんが書いた、お手本のコピー)

山は富士、海は瀬戸、湯は別府。

源泉量日本一の別府を、富士山や瀬戸内海とうまく比較しているコピー
だと思いました。海と山と川と緑と…温泉！温泉も自然のひとつです！



別府温泉のコピー

書く、まちのコピー②

(J R 別府駅内にある、コピーライターが書かれたと思われる、お手本のコピー)

湯のまち別府は世界の宝。

博多から J R で別府に帰るとき、別府駅で必ず目にしてしまう、コピーです。言葉に出すとゴロが良いので、ついつい言いたくなってしまうんです。



別府温泉のコピー

生きてるけど、生き返るんだよなあ。

ここからは、素人のコピーです。（僕が考えたコピーです。）

温泉に入ると“生き返る”って、誰が言い始めたんですかね？



別府温泉のコピー

別府の温泉とオレの才能は、 掘ればたいてい湧いてくる。

僕の才能はまだまだ深くに眠っているので、湧くまで時間がかかります
が、コツコツと別府温泉のように人気になりたいと思います！



別府温泉のコピー

別府温泉は、お風呂ではないぞ。

いつか、ひょうたん温泉という鉄輪にある温泉に友達と行ったときに、観光客が地元の人に言われていました。それをそのまま書きました。



別府温泉のコピー

初任給で別府温泉なんて、いいですね。 母より

初任給が入った月は、母の日も近いので、温泉に招待してお母さんに心を満たしてもらいましょう！体を癒してもらいましょう！お母さんいつもありがとう！



別府温泉のコピー

あなたは「あ〃 ~」派ですか。
それとも「う〃 ~」派ですか。

ぼくは「う〃~」派です！みなさんはどうですか？



別府温泉のコピー

入る前までたしか、忘れたいことがあった。

仕事のこと、宿題のこと、失恋のこと、嫌いな上司のこと、部活のこと、
家事のこと、すべて忘れてしまいたいとき…別府温泉に行きましょう！



別府温泉のコピー

都合の悪いことは水に流す？ それとも温泉に流す？

都合の悪いことは「水に流す」ってよく言いますが、温泉で流したほうが、キレイに
すっきりする気がしたんです…。温泉に流そう！日本人！



別府温泉のコピー

混浴！？混浴！！混浴！？

個人的には、これが一番好きです。「混浴」という言葉に反応する若い人。をイメージして書きました。実際に別府温泉には混浴があります！



別府温泉のコピー

風呂上りの一杯は、最強。
温泉上りの一杯は、無敵。

働く人には、共感してもらえるコピーだと思います。風呂上り一杯は美味しいんですけど、温泉上りの一杯はもっと美味しいはずです！



別府温泉のコピー

浴衣でまちを歩くと、私はよくふり返られる。

温泉に入った後、浴衣に着替え、別府のまちを散策している方を、別府ではよくみかけます。そんなひとをふり返って見てしまう。なんてことも、たまにはあります。



別府温泉のコピー

あなたのため息が、ゆけむりに変わる。

別府では温泉が湧き出ている様子を“ゆけむり”と言うのですが、疲れたひとが発するため息も、別府ではゆけむりと一緒に、空に消えてゆくのです。



別府温泉のコピー

すっぴんだけど、うなじで勝負。

温泉に入った後、浴衣に着替え、別府のまちを散策する。もちろん薄く化粧をする方もいるかもしれませんが、すっぴんで“うなじ”を見せている女のひとが僕は好きです。



別府温泉のコピー

やっぱりわたし、疲れてたんだなあ。

実は温泉では、疲れておくことも支度のひとつに入っているんです。

皆さんよく働いて、よく疲れて、温泉に来てください！



別府温泉のコピー

書く、まちのコピー まとめ

別府温泉のコピーを100本くらい書きました。そして、友達や上司に見てもらい、「ふう〜ん」、「おもしろいね♪」、「つまらない」など、色々なコメントをいただきました。

少なくとも今回書いた13本は、友達数人と上司が「いいね！」と、言ってくれました。

僕は長い間、別府に住んでいたので別府にフォーカスして、コピーを書きましたが、「博多」でも「鹿児島」でも「西米良」でも書けるのではないかと思います。

どんなまちにも、他のまちにはない特徴があり、いいところがあると思います。そこを見つけて言葉にしてあげる。それが、コピーを書くことだと思いました。

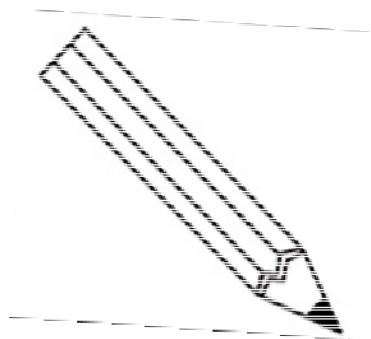
コピーを書くことはひとりでもできますが、ふたり、できれば沢山のひとで書くと、もっと楽しくなるのではないかと思います。

まちを知る



コピーを書く

+



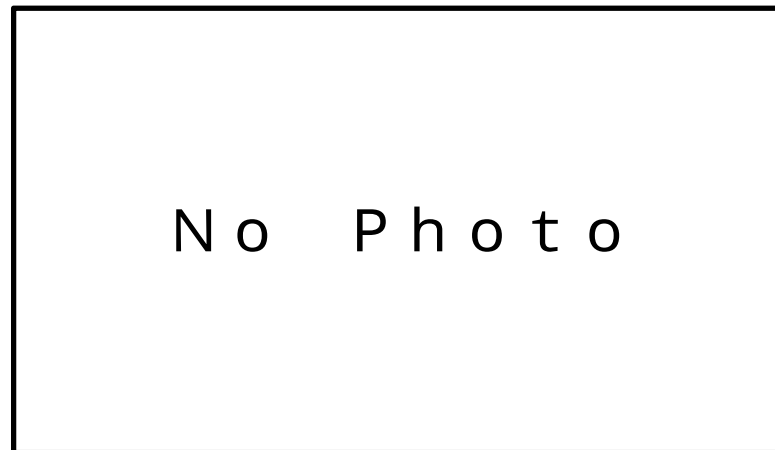
書く、まちのコピー

探す、まちのコピー



探す、まちのコピー①

(ある寿司屋にて)



「 1 0 0 0 円 質 6 カン 量 1 2 カン 」

ちなみに僕は、「量 1 2 カン」を食べましたが、本当に美味しいお寿司でした。

おしながきを開くと、この言葉が書いてあり、亭主の潔さみたいなものを感じました。

探す、まちのコピー②

(ある商店街にて)



唐揚中！

「唐揚」という食べ物を動詞化してしまう、このお店。

もちろん、食べてみましたが、とても美味しい、揚げたての唐揚でした！

探す、まちのコピー③

(ある繁華街にて)



もてたい

カラオケ喫茶という、あまり馴染みのないジャンル。繁華街の飲み屋の中でも独特な存在感を放っていました。もてたい。僕も切実にそう思いました。

探す、まちのコピー④

(ある繁華街にて)



ココは、どこ

カラオケ・ナイト、ココはどこ。記憶を失ってしまいそうなくらい、楽しい時間を過ごせそうな場所。電話で「あなた、どこにいるの？」と聞かれたら「ココは、どこ」と、答えましょう。

探す、まちのコピー⑤

(ある道路にて)



電柱搬送中

「電柱を運んでいるなら、少し安全運転で行こうか…」って、なる言葉ですよ。

(どこから、どうみても電柱は運んでないのですが。)

探す、まちのコピー⑥

(ある役場の男子トイレにて)



男なら常に一步前へ

「一步前へ」的な、コメントは見たことありますが、「男なら」というの言葉がとても効いている気がします。僕もトイレだけではなく、常に一步前へ踏みでたい…。

探す、まちのコピー⑦

(ある自動販売機にて)



おいしい〜い

自動販売機にて「つめた〜い」や「あったか〜い」は、見たことありますが、『おいしい〜い』は初めて見ました。日本全国どこにでもあると思いますが、新しい試みだと思います。

探す、まちのコピー まとめ

僕は、名古屋市の今池という地区に住んでいます。そこで後輩と2人で“探す、まちのコピー”を実践しました

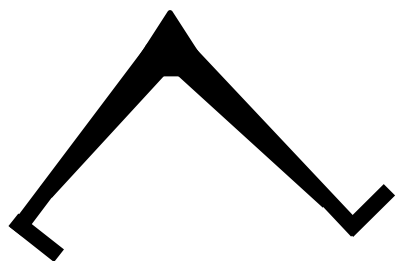
2人で歩きながら、いいコピーを見つけてはは、笑ったり、驚いたり、感動したり…。とても楽しい「探す、まちコピー」でした。

そして、住みなれたまちにも、コピー（意味のある言葉）はたくさん転がっているいるんだと実感しました。注意深くまちを歩き、探すことでそれは見つけ出すことができます。

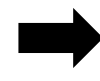
それを見つけて、拾い上げて、みんなに発信して教えてあげる。それがこの「探す、まちコピー」です。

まちを歩く

コピーを探す



+



探す、まちのコピー

まちのコピー まとめ

「書く、まちのコピー」と「探す、まちのコピー」を実践して思ったことは…

「まちを知る」 ⇒ 「まちを想う」 ⇒ 『まちを好きになる』

僕は、「まちのコピー」をやってみて、僕が住んでいる今池のことや、別府のことをさらに詳しくなり、もっと好きになりました。

提案として、まちのコピーを、いつでも、どこでも、誰とでも、できるようにフェイスブックやツイッターを使って拡散するのも効果的だと思いました。（ツイッターではすでにやっています。）

また、「まちのコピー」でワークショップを開催し、まちについてのコピーを皆で考える、イベントも等も開催できると思います。

コピーは頭の中で考えるので、場所はカフェでも、教室でも、仕事場でも、どこでも考えられます。（ちなみに別府温泉のコピーは後輩と、居酒屋で考えました！）

言葉は誰でも使えるツールなので、きっと誰にでもできます！是非チャレンジしてみてください！

まちのことをもっと見つけて、まちのことをもっと好きになって、まちのことをもっと知ってもらいましょう！